

地域再生計画の変更の認定申請書

平成 16 年 10 月 13 日

内閣総理大臣 殿

津島市長 三 輪 優

平成 16 年 6 月 21 日付けで認定を受けた地域再生計画について下記のとおり変更したいので、地域再生推進のためのプログラム 5.(1)に基づき、地域再生計画の変更の認定を申請します。

記

1. 変更事項

関連事業として次の 3 つを付記し、関連する内容について計画本文中に変更を加えた。

駅東地区への大学研究室等の立地・誘導

日本ヨシ原会議の開催

市民劇の愛知万博への出展

2. 変更事項の内容

駅東地区への大学研究室等の立地・誘導

P13 に関連事業として次の記述を挿入。

駅東地区への大学研究室等の立地・誘導

本計画の目標である「地域力の再生」の実現のためには、大学等の高等教育機関の研究室の立地・誘導を行い、そのフィールドワークの場として位置づけることにより、本計画を学術的かつマンパワー的に補完することを目的として進めるもの。

日本ヨシ原会議の開催

ア) P3 に下線部を挿入

(変更前)

また、南端に端の交流拠点として位置づけられた天王川公園があるが、この南側に整備された藤棚は平安時代に「藤浪の里」と呼ばれた本市の歴史と自然を象徴する場所であり、ゴールデンウィーク中に実施する「尾張津島藤まつり」において多くの観光客を誘致する観光スポットともなっている。

(変更後)

また、南端に交流拠点として位置づけられた天王川公園があるが、これは、かつて木曽川の支流であった天王川（現在は大きな池となっている。）を中心とした公園であり、安土桃山時代から続く尾張津島天王まつりの舞台でもある。

この祭りは、疫病消除、病氣平癒の神である牛頭天王の神事であり、「川祭り」と「神葭^{みよし}流し（注2）」により構成されている。前者は幽玄美に溢れた川祭りとして名高く、宵祭りには毎年 20 万人を超える観光客がこの情緒を味わいに天王川公園に訪れている。後者は、神葭に人々の罪穢れを託し、川に流す事により、神の力により酷暑を無事過ごそうと祈念した、祖先の信仰の名残であるといわれている。

なお、この「牛頭天王」を祀る二大神社が、京の祇園社（現、八坂神社）と尾張の津島牛頭天王社、現在の津島神社である。

併せて、公園の南側に整備された藤棚は平安時代に「藤浪の里」と呼ばれた本市の歴史と自然を象徴する場所であり、ゴールデンウィーク中に実施する「尾張津島藤まつり」において多くの観光客を誘致する観光スポットともなっている。

イ）P4 に下線部を挿入

（変更前）

また、天王川公園の藤棚では棚の下に遊歩道を設置して、多くの方々に藤の花房や香りを楽しんでいただいているが、近年、観光客の増加に伴い、藤の根を踏まれることが増加し、それが一因となって藤の勢いが衰えてきている。

（変更後）

また、天王川公園は先にも触れたように尾張津島天王まつりの舞台であるが、流れを堰き止めて造った池（以下「丸池」という。）であることから、かつての水郷地帯の趣が希薄化してきているとともに、古の民衆の素朴な信仰の産物である神葭神事がイメージしにくくなっている。

併せて公園内の藤棚では棚の下に遊歩道を設置して、多くの方々に

藤の花房や香り」を楽しんでいただいているが、近年、観光客の増加に伴い、藤の根を踏まれることが増加し、それが一因となって藤の勢いが衰えてきている。

ウ) P15 に関連事業として次の記述を挿入

日本ヨシ原会議の開催

近年の自然堤防志向や葦の水質浄化作用が注目されているが、御蔭神事と非常に関係が深い津島神社のお膝元である本市において、平成 17 年度に開催するもの。

市民劇の愛知万博への出展

P15 に関連事業として次の記述を挿入

市民劇の愛知万博への出展

かつて水郷のまちであったこの地区を舞台とした自然や環境をテーマとした市民劇を愛知万博に出展するもの。

その他の内容変更（校正による。P6 に下線部を挿入）

（変更前）

また、中心市街地にとどまらず、日本社会そのものが少子・高齢化に向かいつつある中で、高齢化が進む地区でのコミュニティの再生は、今後のまちづくりにとってひとつの試金石となるものではないかと考えており、その意味においても、本計画は非常に重要なものであると認識している。

（変更後）

また、中心市街地にとどまらず、日本社会そのものが少子・高齢化に向かいつつあり、折りしも「補完性の原理」の再定義による分権化や公共領域における官から民への主体の移行などが進む中で、「自立」と「自助」が可能で、しかも、「持続可能」なまちづくりの方向性ないし手法の構築は、あらゆる自治体にとって克服しなければならない課題であるとともに、解決の非常に困難な課題であろうと思われる。

従って、それが典型的に現れている地区におけるコミュニティの再

生は、これからの「持続可能」なまちづくりの試金石となるものではないかと考えており、その意味においても、本計画は非常に重要なものであると認識している